

今号の TOPICS～（副代表のご挨拶）

自然と文化科に入科してもうすぐ5年になります。入科して翌年観察班幹事、万博 NF 担当になり2年経ちました。コロナで担当1年目は中止で、昨年11月3日に万博 NF が3年ぶりに開催されました。



準備当初から何もわからず心配でしたが、手慣れた先輩方が次々と指示して動いてくださり、皆様の協力を得て、失敗もありご迷惑をおかけしましたが、何とか無事終

える事が出来、ホッとしました。今年度入科された方の中には、万博 NF を経験していない方もおられましたが、少ししんどかったが楽しく参加出来たと聞き一安心。



終わってやれやれ、後1年先だと一息ついた所だが、在庫材料がほぼゼロなので、又材料を集めなければならない。声をかけたら次々採取してくださり、とてもありがたい。これからも色々ご協力よろしくお願いいたします。今度は疲れないうよう、みんなが楽しく参加出来るように考えたい。

自然と文化科には今年度新しく7名が入科し、楽しそうに活動している様子を見ていますと嬉しくなりました。来年度からは、入科条件が変わり入り易くなったが、敷居が高いという声も…。時代と共に考え方も変わり、めんどくさい事はなるべく避けたいという風潮がありますが、我々自身が楽しく充実した科と思えるようだと、回りにも伝わり入科してくると思います。それには負担をより軽くして自然観察会、歴史文化を楽しめる良い科になればいいと思います。

素晴らしい先輩方に色々教わり、歴史、鳥なども、もっと勉強して楽しい観察会が沢山出来たらいいなと個人的には思っております。

***** 目次 *****

P1 今号の TOPICS	藤原 泰子
P2 仲間たちの近況報告(1)	
1 班	宮阪 信次
2 班	水谷 夏子
P3 仲間たちの近況報告(2)	
3 班	池上 千代枝
4 班	田中 朱実
P4 専任幹事ご挨拶	玉尾 洋一
リレー随筆	藤本 純子
P5 私の玉手箱	笹井 宏悦
P6 樹形ウォッチング	遊上 真一
P7 絵画コーナー	藤川 宗昭
P8 俳句・	池田 清
川柳コーナー	竹山 秀規
P9 俳句・	山上 恵子
川柳コーナー	

◇自然と文化だより◇

ロシアのウクライナ侵攻から1年が経過、いつまでするつもりですかねえ！米中の水面下での競い合いも不気味で、相変わらず北朝鮮がミサイルを撃ち続けている。世界中が一発触発の危機が感じられる。

そんな中、明るいニュースとして、犬猿の仲であった韓国と対話が始められた。慰安婦、徴用工問題が解決に向かい、5年ぶりに日韓首脳会談が行われた。まずは安保であるが、竹島の件もあり、問題が山積している。韓国国内では反日運動がまだまだ盛んであり、大統領が代われば、約束を反故にされることが、過去の例から見て疑われる。

Y. T



人生 80 歳の壁を越えてどう生きるか

1 班 宮阪 信次

数学者の森毅氏がエッセイのなかで、人の一生は 20 年を一周期としていろいろ変化して年を経てゆくもので、何周期で自身の死期が訪れるかは誰にも判断はできないが、その為に決して「老後の安心求めるな」と述べている。人間誰しも欲があり口には出さずとも、少しでも長生きしたいと思っている。いよいよ私は、この説でいくと 1 月で 5 周期目の壁に到達したことになる。本「80 歳の壁」（和田秀樹先生）の中で「壁」は高く厚いが、壁を超える最強の方法がある。それは、嫌なことを我慢せず、好きなことだけすること。一つ一つの選択が命に直結すると述べられている。

私の第 4 周期（2003-2022）を振り返ると、「IT の語り部」（大学の非常勤講師）と「環境の語り部」（シニア活動）に集約できる 20 年間であった。私的には難病の息子の 50 歳での死（2019）が特筆すべき出来事だったことは言うまでもない。第 5 周期の目標は「善きサマリヤ人」（聖書ルカによる福音書 10 章 25 節から 37 節）、具体策として、好きなことができる「森の熊さん寺小屋」を構想し、実現すること。自立・自律の間は、社会弱者（高齢者や障害者）の情報デバインドと共に悩み、学び、喜びを共にしたいことだ。2 年前から、SCRATCH プログラミング教室、IT 困った相談室など 3 教室を立ち上げている。オンライン教室（ZOOM）が主で、自分の好きな時に自分のペースで自由参加可能で、参加人数は総勢 15 名。半年間の学びで、「住吉神社案内ガイド」、「ショパンピアノ曲の演奏」など、想像以上のオリジナル作品がプログラミングできるようになっているのにはびっくりさせられている。それは、ちょっとしたサポートで、眠っていた創造力が目覚め、日の目を見たといえる。1980 年代、日本の IT 技術は世界一と評価されていたが、現在、数周遅れに忸怩たる思いが一杯。将来の夢は、大勢の子供たちが、世界に成果を発信してほしいものだ。日本には、寺小屋的な自由学校方式が必要だと確信している。

高尾山は なんの山？

2 班 水谷 夏子

昨年の 4 月コロナ禍であったが、友人と一泊で高尾山に出かけることにした。高尾山は関東方面の紅葉の名勝地ぐらいの認識で、高尾山を選んだ理由は特別になかった。高尾口駅からケーブルは利用しないで 1 号路の山道に登ることにした。登山口の石碑に「東海自然歩道の起点」とあった。東海自然歩道は、明治の森高尾国定公園から明治の森箕面国定公園の終点までの 1697 km、11 都府県 90 市町村にまたがるそうだ。「東海自然歩道の終点」の石碑を箕面で見えていたので、身近に感じられた。急坂を登っていくと、ヨゴレネコノメソウ、ツルカノコソウ、ユリワサビ、ニリンソウやミヤマキケマンの群生、シロヤブケマン等次々と現れる花々に興奮してしまふ。今まで見たことがないスミレが目に入ってきた。何かな？ 通りがかった人の声で、「タカオスミレ」と分かった。花が咲く頃は葉の表面がこげ茶色、花が終わると緑色の葉が出てくるのが特徴とあった。これが「タカオスミレ」か、野菜のサニーレタスの葉に似ていて食べられそうに思った。高尾山を代表するスミレだ。ニオイタチツボスミレやタチツボスミレは終わりかけていたが、葉が粉白色のスミレを見つけた。後でシロバナツクシコスミレとわかり、高尾山の植生の豊かさに驚いた。高尾山は元々霊場であり、江戸時代は幕府直轄領として山林保護政策を取り、その後も帝室御料林、国有林を経て、森林が守られてきたことにより、現在の植生が維持されていると知った。昨年の夏に共通講座で清水孝之先生が、高尾山の植生について高く評価されていた事に納得した。下山路でスミレに詳しい人に出会うことができ、スミレサイシン、オトメスミレ、エイザンスミレを教えて頂いた。高尾山は「スミレの山」といわれる事に合点し、紅葉の名勝地だけの認識を恥じて下山した。次回は早春のスミレにも出合いたいと思っている。



小さな 里山

3 班 池上 千代枝

新名神高速道路の工事によって「里山守る会」のフィールドである千提寺の共有山がなくなり、大切な植物が失われることに心を痛め、樹木を一本でも多く救済する移植活動をされていた。

※消える里山引っ越しプロジェクトの発足※

JR 茨木駅南のサッポロビール工場跡地に立命館大学が開校されキャンパスに里山ができ 12 年
※千提寺共有山～立命館大学・キャンパス里山へ※

立命館大学の先生たちが茨木の里山の草木でキャンパスに里山を築き「大学の千古の緑WG」との思いと「茨木里山守る会」の理念と一致し、大学の全面的な支援が得られるようになる。

第一日曜日移植作業、小さい苗をポットに入れ、大きな苗にも挑戦、素人ばかりで根鉢を作りには大変苦労した。採取場所も「仁の森」「魁の森」「銭原青少年野外活動センター」へと広げる。移植場所が狭くなり工事現場から真砂土を運んで茨木里山センターのグラウンドのわきに仮苗床を作る。

※育てる里山プロジェクト発足※

消える里山引っ越しプロジェクトと統合して「育てる里山プロジェクト」。事務局は大学内に置き市内の団体、一般市民、学生、教職委員に呼びかけ活動が始まる。大学のグラウンド脇に里山エリヤとして敷地内の土壌を積み上げその上に真砂土を覆った状態でした。雨で流されて草木を植えるのにスコップで小さい穴を掘ることもできなかった。まず植物が育つ土壌に改良することでした。素掘で無数の穴を掘り、たて溝、外周にも作りその穴に竹炭、剪定した木の枝、草を入れ土壌改良の活動でした。たくさん移植した樹木も洄れその後雑草であるアレチヌスビトハギ、クズの繁茂に悩まされ荒野の 3 年間でした。

今では樹木の育つ環境になり、遊歩道の整備、樹木の名札付け、里山講座「雑木林の生き物探し」昨年は「昆虫観察」と市民に呼びかけ開催しました。新型コロナウイルスの影響で活動も中止が続きますが着実に雑木林に近づいてきています。



孫でまごまご

4 班 田中 朱実

春から、家族の事情や自身の体調不良で、皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。

昨年 5 月より急に孫たちの世話をする事になりました。小学 1 年生と 4 年生の男の子。老夫婦 2 人でのごくごくシンプルでつましやかな生活の中に、台風のように若い命が入ってきました。

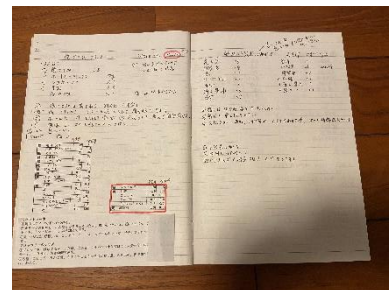
4 年生はもう自分の事は大方自分でできるようになっていますが、1 年坊主は頼りない事、頼りない事。こまごました学校からのお知らせ、習い事、早い帰宅時間、そして 1 番困ったのは食事でした。

子供用に味付けしたつもりでも野菜を残すことが多く、どうしたものかと悩んだ末、行きついたのが給食レシピ。今の給食のレシピはよく考えられているなぁと感心します。

例えば春菊。私は子供時代、なべ物に入っている春菊が苦手だったので、子供は食べないものと決めてかかっていた。が、試しに給食の「菊菜と白菜の胡麻和え」を作ってみました。給食レシピの通り、砂糖、薄口しょうゆ、ごまで味つけしたら、食べた！

例えば「胡瓜の赤じそ和え」ええ～こんな子供が食べるかなぁ。給食レシピで作ってみました。食べた！

何と良く考えられている事か。砂糖を何にでも少し忍ばせるのが極意なのでしょうか。まあ、大人には薄味でパンチがなく、少し物足りない気もしますが、夫には後からスパイス等をかけてちょっと我慢してもらっている、、、、かもしれません。



孫たちが美味しいとよく食べたレシピをノートに書きとり、かなりレパートリーも増えてきました。

「今日の晩御飯は、〇〇よ」「やった～！」の声を励みにしばらくまごまごとバァバ稼業頑張ります。

大分慣れてきたとはいえ、来年度も自然と文化科の活動を少しセーブせざるを得ず、申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

広報とは

3班 玉尾 洋一

広報専任幹事になって早4年になりました。その間、何も考えずに皆様から頂いた豊かな情報（投稿）をもとに、ホームページにアップし、満足し、仕事をしたという気分になっていました。しかしここに来て、なんのためにこの活動をしてるのか疑問になり、考えてみました。

広報とは、辞書を引くと、「企業などの団体が、メディアに対応するなどして、その活動内容を広く伝えること。」となっていますが、我々に置き換えると内向きの情報発信が、主な目的です。科員の考え方や趣味趣向を知ることにより（自然と文化だより）、コミュニケーションが図られ、円滑な活動が醸成されることが、期待されます。そのためには、多くの方に投稿頂くことが、大切です。これからも是非続けて行きたいです。

最近、活動記録を簡略化して、科員の負担を軽くする方向で検討していると聞いています。これは前述からすると、問題なく思えます。最低限の事が判れば差し支えないでしょうと、軽視していましたが、ある事で考えが変わりました。この度、残念ながら箕面探索同好会が12年の幕を閉じ、解散となりました。アーカイブにしようとデーターを編集しましたが、見事にまとめておられて、活動が詳細に分かり、楽しく拝見する事が出来ました。過去の充実した活動のエビデンスとして残したいものです。

次に広報からのお願いとして、広報だけが情報発信するには限りがありますので、科員の皆さんからも、掲示板から日頃のエピソードをどんどん発信して欲しいと思っています。発信は簡単にできるようになっています。試してみてください。発信後も、間違ったら自分で消去できます。

最後に外向きでの情報発信です。ホームページは一部を除き、オープンにしていますので、誰でも閲覧できますが、その誘導方法が難しいです。多くの人に閲覧してもらえれば、会員数も期待できます。方法としてSNSかブログくらいしか思い浮かびませ



んが、誰かやりませんか？やっておられる方は是非自然と文化科をアピールください。

高齢者速度

3班 藤本 純子

近頃はゆったりとした時間の流れの中に身を置くのが心地よい。かって田舎の農家なら誰もが作っていた味噌作りや梅干し作り等を楽しんでいる。1年に1度の事で今年はどのような仕上がりになるかと、1年以上も先の出来上りを待つ。食せる様になってからもう少し熟成させるのが私流だ。何年か前に初めて作った時に2年近く熟成させたからかとても美味しい物が出来た（手前みそ？）。それ以外にも折々の農作物を加工して貯蔵し、長い間楽しんでいる。

そんな季節の仕事の間には、昨年から1時間程で行ける植物園に行くようになった。そこには思いもかけ無かったことに、様々な植物園ファンが居て話を聞くだけでも楽しかった。お目当ての案内人が居るロングスカートの女性は、彼の出番の日には必ず来る。又、好みの案内人の日はお弁当持参で午前・午後共1日受講する人。近隣の植物園を交互に訪れる人。思い思いに植物観察を楽しまれている。最近では私も情報を参考に空き時間を見つけては森で過ごす時間が増えてきた。スタッフが大勢居られるところなら、記憶するのがゆっくりな私も「前にも言ったのに。」と思われないかと気にすることなく何度でも聞いている。そこで出会う多くの方は覚えることに貪欲では無く、今自分が知りたい事を教えて貰える事を楽しまれている様に見える。様々で良いのだと思える様になった。

昨年の今頃迄は観察会の開催も少なく植物に関するスキルアップが出来ず、このままこの科に居らせて貰えるのだろうか・・・と悲観していた。が、それも授業が順調に開催されるようになると、覚えられないのは変わらないが、みんなでワイワイガヤガヤと観察するのはやはり楽しい。見渡せば身近にも自然が好き！という人も居た。私はこれから観察の学びを始めるその人達と、一緒に楽しみながら歩めば良いかと思える様になってきた。

あの惨めな気持ちからこの様な前向きな気持ちに変わったのには多くの方々の励ましのお陰です。本当にありがとうございました。これからもゆっくりゆっくりだけど今いる学びの場の中で歩み続けたいと思っています。今後よろしくお願いいたします。



初めて観る地下茎のいろいろ

4 班 笹井 宏悦

草本たち特に多年草の「芽や茎など」は冬季を地下の中でどのように過ごしているのだろうか。知識が殆んど無いまま興味だけが先走っていた。2～3年程前に観察を試みてみたが、樹木の冬芽観察とは違って地下茎の観察をしようと考えても「眼に見えず直接観察出来ないものだから」という言い訳で、観てみるのが遠ざかっていたと思う。

けれど、やっぱり観ようと思い、昨年 12 月頃から本年 2 月頃にかけて地元小学校の花壇の空いている場所を借りることにした。観察の度に 13 種類の多年草などが植わっている土を掘り起こし、終われば同じ所に移植を行うことを繰り返して地下茎の芽や茎の生育状況を調べた。

多くの地下茎において花芽や葉芽が茎の元や匍匐した先端あるいは節に発生すると考えているが詳細は勉強不足！今回、冬期の地下茎の芽などに関して知り得た一部とその写真 3 枚および冬期に適応して生きているロゼット植物も記載することにした。

余談ですが、小学校内で一緒に活動している「花育成ボランティアの仲間」から「いったい何の観察をしているんですか？」と問われたことがある。自分自身も「地味な観察で不明な点が多いなあ～」と思いつつ、多年草やロゼットの冬期の生き様を観ていると、樹木の冬芽観察と同様に感慨深さを思うようになってきた。

なお、植え替えした草本は枯れることが無く、春～夏にかけて花を咲かせていました→一安心！身近な場所（小学校内や自宅）で採取した。多年草などを花壇に移植し、それぞれに名札を付けた。土中の気温も調べた。

写真（右）

* 観察した草本は野外などでよく見かける種類



ススキ・ヨモギ・キンミズヒキ・ヤブカンゾウ・ヒガンバナ・オオキバナカタバミ・セイタカアワダチソウ・フキ・スイセン類・タマネギ・シラン・オオアレチノギク・サトイモ。

フキ（キク科）

雌雄異株で、花芽①はやがて「フキノトウ」に成長する。葉芽②は地下茎の先に葉芽が出来て生長するが、この時期では未発達。



2023・2 堺市西区

ススキ（イネ科）

12 月頃多くの茎の元から白い小さな象牙のような新芽が出来、その先は黄緑色の葉で、やがて大きくなり、叢生状に株が広がっていく。



2019・12 堺市西区

セイタカアワダチソウ（キク科）

茎が匍匐し、その先端に葉芽が出来て生長していき、やがて分布を広げていく。多くの株は地上部に茎・葉を付けて越冬する。



①地表面 ②今年の新葉

2023・2 堺市西区

.....

以前、堺市大仙公園でロゼット植物の観察を教わったが、中でも色合いと形が美しかったメマツヨイグサ（アカバナ科）の写真を掲示したい。— 北アメリカ原産—

外側の赤味がかかった葉は紅葉？内側の白線の入った緑色と外側の暗赤色との色合いと四方八方に伸びる葉形が美しかった。（2019 大仙公園）



白色の葉

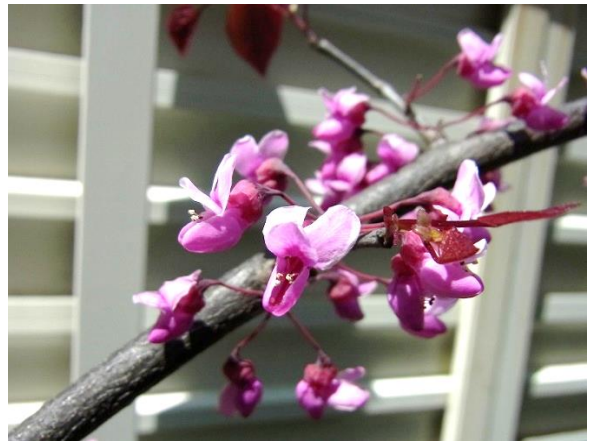
3班 遊上 眞一



アメリカハナズオウ（アメリカ花蘇芳） 5月22日撮影。最初見たときは 何の木かサッパリ分かりませんでした。北アメリカ原産のマメ科で、欧米では広く普及しているそうです。いろんな種類があり白い斑が入るのはシルバークラウドという種です。



葉の形は、ハナズオウと一緒にですが、
質感は薄く しおれた感じです。



花もハナズオウと似ています。



ハツユキカズラ。テイカカズラの園芸品種です。
色の感じが アメリカハナズオウに似ていますね。

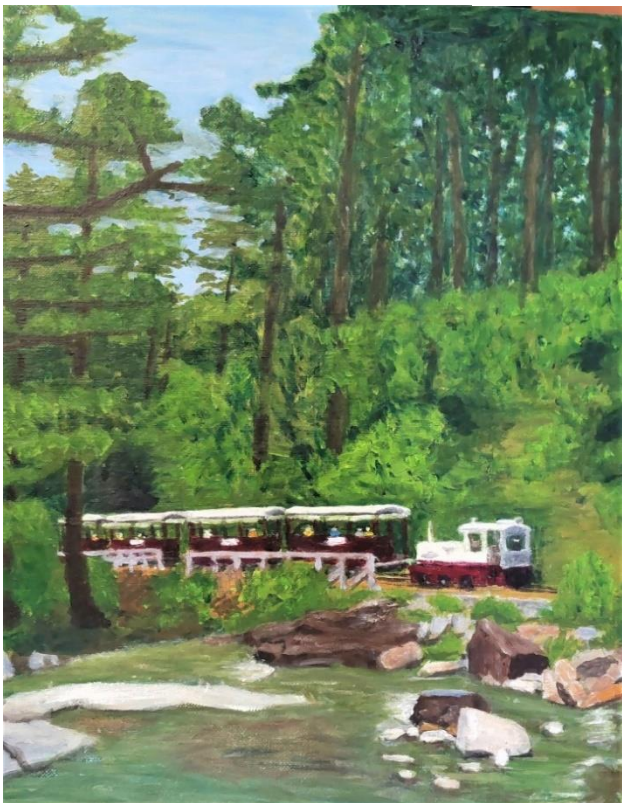


ギンリョウソウ。こちらは全身真っ白です。

<https://sizontobunka.jp/kaiga/index12.html> クリックすると拡大します



神戸森林公園シアトルの森



赤沢森林鉄道



戸隠森林植物園

俳句

1 班 池田 清

- ・ 薄氷を溶かす力や地の鼓動
- ・ 山笑ふ里の棚田の水の音
- ・ 大空へ確かな飛翔鳥帰る
- ・ せせらぎに膨らむ蕊や猫柳
- ・ 紀州路は山も麓も梅の中



川柳

3 班 竹山 秀則

シニア川柳：3 選(つぶやき付き)

- ・ メガネかけ メガネはどこだと、探す日々
(皆様もこんな経験あるでしょう？やっぱ
り年は取りたくないですね)
- ・ 今日行く(教育)も 今日用(教養)も無し
一人たたずむ
(教育も教養も無い人は毎日、どこで時間をつぶそうか?)
- ・ OB 会 物故者リストで 目が点に
(3年ぶりに OB 会が開催されたが、コロナ禍で物故者の多い事多い事!)



川柳

4班 山上 恵子

- ・自由しか選択肢ないウクライナ
- ・コロナには振り回された全世界
- ・世が全て想定外になっていく



俳句



- ・てっちりの湯気に笑顔の曇りをり
- ・何もかも冷え切ってをりシャッター街
- ・皆強き目力であり雛の衆



56号に投稿頂きました皆様、
お陰様で無事発刊することが出
来ました。ありがとうございました。
来期も引き続き皆様のご
協力を期待しております。

広報委員会